

表層混合処理工法

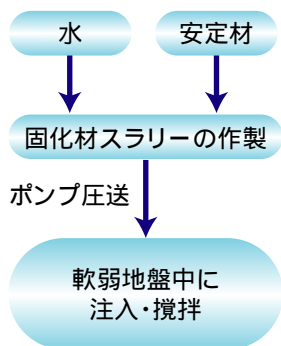
表層混合処理工法は、建設機械のトラフィカビリティの確保や地盤支持力の増加を目的に表層地盤にセメントや石灰などの固化材を混合する工法です。超軟弱埋立地盤などでは、格子状に表層混合処理工法を適用し、格子間にジオテキスタイル工法を用いて覆土を施工することが一般的です。また、河川底泥からの有害物質の溶出防止にも適用できます。

特長

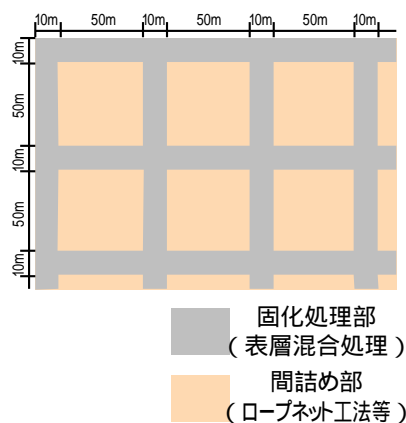
超軟弱粘性土に対しても重機の走行が可能な固化版の造ることができます。

固化材量の調整により、必要な地盤強度が短期間で確保できます。

施工手順



施工状況



泥上車



作業船

施工実績

工事名	工期	施工場所	発注者	目的	施工面積 / 改良厚 / 改良材
東京国際空港ターミナル地区 共同仮設工事	89.6 ~ 90.3	東京都	運輸省	空港用地の覆土	30,800m ² / t=1.0m / セメント
広島城内掘浚漂工事	91.10 ~ 93.9	広島市	広島市	河川底泥からの溶出防止	65,000m ² / t=0.7m / セメント
正蓮寺川基盤整備工事	92.12 ~ 95.12	大阪府	阪神道路公団	河川底泥からの溶出防止	6,100m ² / t=1.0m / セメント
山口宇都空港整備工事	96.8 ~ 97.5	山口県	山口県	空港用地の覆土	35,800m ² / t=1.0m / セメント